

第18回

書道監修・執筆 河野 隆

オリジナルの印を刻もう ～篆刻～

今回学ぶこと

篆刻とは石などの印材に文字を彫ることだ。篆刻作品は書や日本画などに押される印に用いられる。作品に署名をしたり、印を押すことを「落款」と言う。印はその書が誰の作品かを証明する。そして作者の個性を表す書の表現方法のひとつとして重要な役割を担っている。篆刻の創作には、筆で文字を書くだけでなく、彫って、押して、見る、という立体的な作業が加わる。篆刻を実際に印の創作を体験しながら学んでいく。

学習前チェック！用語の意味を確認しておこう

書体／篆書／字典／朱墨／印泥

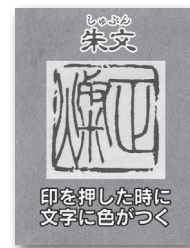
篆刻に挑戦

篆刻の創作には、石や木、竹などの印材のほか、印床（印材を固定する）、印刀、印矩（押印時の定規）、印泥などを用いる。

創作の手順は次のようになる。

- 選文……彫る文句を決める（姓名や語句など）。
- 検字……字を調べる。書体字典で形をチェックする。
- 印稿……草稿を書き構成を工夫する（略式と本式がある）。
- 布字……印面に印稿の逆字を書き入れる
- 運刀……印を彫る
- 押印……印泥をつけて押す
- 補刀・完成

篆刻



大胆に彫ろう

印には文字を彫って白く表現する「白文」と、文字の周りを彫って文字を残す「朱文」がある。印稿の段階でどちらにするか決めておく。印刀の持ち方は筆と同じで良い。印材は印床や手で固定して力強く彫っていく。運刀には引いて彫る方法と押して彫る方法がある。白文は太めに、朱文は細めに彫るようにすると良い。

正確に彫ろうとして慎重になり過ぎると、勢いのない弱い線になる。石が欠けたり傷ついたりするのも味わいと考えて大胆に彫るように心がける。また、輪郭と文字の調和を工夫しよう。

書の立体表現

板に文字を彫ることを刻字という。文字の部分を彫る陰刻と、文字以外を彫る陽刻があり、いずれも筆の書にはない立体的な味わいがある。刻字には板材のほか、のみ、木槌、彫刻刀、着色用の絵具などを用いる。

創作の手順は次のようになる。

- 原稿を書いて板に貼る（直接板に書いても良い）。
- 彫刻する
- 木地と文字の部分を着色する

達人からひとこと！

篆刻は掌（てのひら）に乗るほどの小さな印面に主に篆書体を用いて造形し、印刀で彫り上げます。そして、印泥をつけて紙上に押し、朱白のコントラスト鮮やかに仕上げます。できあがった印は、書作品の落款印として作者を証明し、作品に彩を与えます。黒白の紙面の中で紅一点の重要な働きをするのです。

自分で作った印を、落款印として作品に効果的に押し试试吧。



達人
河野 隆